

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立松山東高等学校

学校番号 (2 1)

評 価 実 施 日	平成 31年 2月 12日 (火)		
委 員	氏 名	所 属 等	備 考
	井 門 照 雄	学校評議員	
	友 近 貴 子	主婦	
	井 上 敏 憲	学校評議員、四国地区国立大学連合アドミッションセンター長	
	高 岡 明 典	道後中学校進路担当教諭	
	義 野 陽 子	地域代表、松山市立八雲保育園園長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
<p>1 今年度の最終評価について</p> <p>(1) 学校経営 年度始めにマニフェストを通して、全教職員に教育目標が共有されていることがアンケートの結果から分かる。組織的に学校運営がなされている。 数値目標において、連続して達成できていない項目においてはその原因を明らかにし、場合によってはその数値目標を見直す必要がある。</p> <p>(2) 学習指導 アンケートの結果から生徒の授業への取組の高さ、また授業の質の高さが伺える。教育機器が多くの授業の中で使われており、今後も継続していただきたい。 学習指導要領の改訂に向けて、早めに準備を行う必要がある。</p> <p>(3) 進路指導 進学指導の充実に関してとても高い数値目標を掲げており、地域の期待に応えるために大変努力している。 1、2年生の時に進路に対する意識を高めるための工夫を行う必要がある。</p> <p>2 重点目標について SGH事業終了後もこの5年間の授業で得たものを今後の教育活動に生かしてほしい。</p> <p>3 説明・公表について ホームページでは英語版も含めて情報発信をしっかりと行っている。英語版のホームページの開設は全世界へ発信する手段として素晴らしい取組である。</p> <p>4 学校運営への提言</p> <p>(1) 授業公開では電子黒板を使った授業が多く見れて新鮮だった。今後も授業改善に取り組んでいてもらいたい。</p> <p>(2) 昨年と比べて、教育相談の充実が図られている。さらに継続してほしい。</p> <p>(3) 新たに変更する予定の入試に対しての取組を考えてほしい。</p>	<p>・生徒、保護者、さらには地域の期待に応えるためにも安易に数値目標を下げるのではなく、達成できなかった原因を探り、数値目標を達成できるよう努めていきたい。</p> <p>・電子黒板が導入されて2年目になり、多くの授業の中で効果的に活用されている。 ・学習指導要領改訂に向けて、夏に各教科3名程度、県教育委員会主催の教育課程説明会に参加し、準備を進めているところである。また研究授業の中には新学習指導要領を意識した授業がいくつか見られた。</p> <p>・進路課を中心に大学の先生のお話を聞く機会を作っている。 ・SGH事業の取組の1つとして「総合的な学習の時間」の中で課題研究を行っている。そのため大学で何を学ぶのかについて考える生徒が以前より増えてきた。</p> <p>・グローバル人材育成振興会を立ち上げ、グローバルリーダー育成のための教育への支援に援助をお願いしている。SGH事業で培った成果を今後も本校の教育に生かしていく。</p> <p>・本校は毎年、フィールドワーク、海外語学研修等で海外の方と関係を持つことが多い。また毎年、留学生を受け入れている。日本語を母語としない方々への情報発信の場として英語のホームページを開設している。</p> <p>・現在は電子黒板をどのように効果的に使うべきかについて各教科とも取り組んでいる。さらなる授業改善に取り組んでいきたい。 ・臨床心理士によるカウンセリングを必要に応じて行っている。また学期ごとにアンケート調査を行っている。生徒の心のケア等の充実のため最善を尽くしていきたい。 ・実用英検、TOEICへの呼びかけをし、多くの生徒が受験した。 ・1年生を対象に新しい入試についての説明会を実施した。</p>